

戸板女短大 香取智恵子

1. 洋服縫製上では曲線部の縫合合わせが比較的多い。その曲線縫合合わせ後の布端折込み部分の成形については布地の性質で大巾に変わることは経験的に知られている。この様な成形時の布地の性質をより客観的な数値表現が可能かどうかを検討した。この作業では布地の平面方向の圧縮可能性に関係しており、前報(布地の性質の数値的表現第1報)でバイアス方向への圧縮可能性が最も大きいことから、この作業でも同様のバイアス方向の布地の性質との関連として取り上げてみることにした。

2. 折込まれ成形される布端部分も、その曲線の大小又は変形曲線等によりその状態が変化するので、今回は曲線を次の4種類に分けて実験を試みた。半径2, 4, 6, 8 cmの円形盤を作り、実験布はこの倍に裁断し円形盤を芯に縫いしめておく。次にこの盤のバイアス方向の位置で0.5cm間隔に5カ所について平坦な部分から徐々に厚さの増加する状態を測定した。

3. 折込み部の平坦化の評価を布地の原厚の50%増になる点と縁辺との距離で表わすこととし、その数値とバイアス伸長との相関を検討したところ、実験に使用した各種の円盤の全部について高い相関を得ることができた。このような縫製加工においても、バイアス伸長で表わした布地の性質の数値化は有効な指針となることが明らかとなった。